

# 愛媛教職員組合 (JTUえひめ)

2015年11月25日発行  
(愛媛教研版)

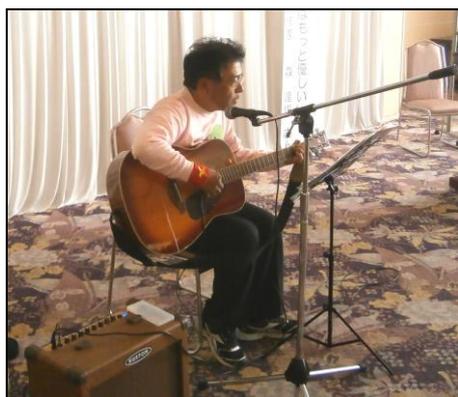
## 第52回愛媛・父母と教職員の教育研究会

2015年10月31日(土)

### 1 オープニングセレモニー

弾き語り:ガチャピンの相棒

**カノン(金魚の歌)** 作詞・作曲 遠藤 ミチロウ (MICHIRO ENDO)



演奏の様子

♪♪ ポクは今日 ふたのついた ビンの中で泳ぐ  
玉虫色の光を キラリキラリさせながら  
腹を出し 尾っぽを流して 泳ぐ赤い金魚  
ふ～らり ふ～らり ふ～らり ふらり  
泳ぐことは頭ぶつけることだ 見ているあなたに  
痛さはわからないだろう ポクは上へも下へも行かないところで  
まるであなたの知らないところで 泳ぐ 赤い金魚  
ふ～らり ふ～らり ふ～らり ふらり

..... ♪♪

歌詞を声に出して読んでみてください。

### 参加者感想

◆ すばらしい。特に金魚の歌が良かった。

### 2 開会あいさつ(越智 勇二さん)

安全保障関連法・原発再稼働・歴史教科書・辺野古新基地建設と戦後70年体制を崩して戦争へ導こうとしている。しかし、民衆の運動によって立憲主義・民主主義・平和主義の大切さが示された。学校現場の問題も山積みだ。「平和・非戦」をテーマに違いを超えて共にすすめる方向を導き出したい。

### 3 レポート発表(堤 剛さん)

「いまようやくここに立つて」・・・丸木位里さん、俊さんの絵画展示・・・

丸木夫妻の描いた広島原爆、南京虐殺の絵で、戦争を考える授業を中学3年生で行った記録。  
生徒の感想より<抜粋>

- ① 歴史の教科書では深い所まで書いていなくて、簡単にしか書いていないなあと思いました。これから生きていく中で、こんな戦争をしないためには、内容をいろいろ深く考える必要があると思いました。
- ② 資料を読んでいる中で、信じたくないことや辛いことが多くて、この現実から目を背けたくなりました。けれど、私たちが今しっかり向き合うことができないままなら、

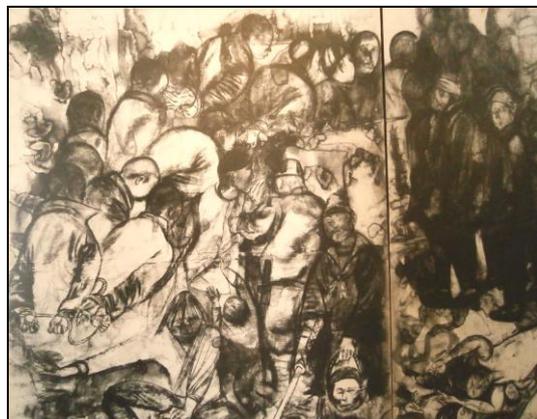


レポート発表の様子

また同じ間違いが起きると思います。決して目を背けていい問題ではありません。戦争は一人ひとりが、正しく本当のことを理解することが大切だと思います。だから私も、しっかりこの問題と向き合いたいです。

### 参加者感想

- ◆ 日本への原爆投下は、日本だけが被爆者ではなく、広島で捕虜となっていた米兵も被爆し殺されている。朝鮮から強制連行された人も殺されている事にも、目を向ける必要がある。戦争は人類全体を巻き込む悲惨なものである。誰が加害者で、誰が被害者であるかという位置付けだけでは、歴史的な認識の格差は解消されず他国との友好関係を築けない。
- ◆ 作品の展示があり、取組みがより身近に感じることができた。
- ◆ 先生のような授業を何人の先生が行っているのだろうか？戦争に無関心な子どもが大人になっていつている。



南京大虐殺の図

## 4 講演

「世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい」

講師 森 達也さん（映画監督・作家）

松山は監視カメラ設置、全国の上位 10 位内に入っている。

1995 年、オウム真理教のドキュメンタリーを企画し、制作した。上層部から止められた。でもデジカメで制作を続けた。テレビ局、制作会社、上層部に知れて首になった。どのテレビ局も取り上げてくれなかったので、仕方なく自主制作、映画「A」にした。

映画をみた感想はほとんどの人が「オウム真理教の信者が、あれほど普通だったとは思いませんでした。」メディアで報道するときには、オウム真理教は凶暴凶悪な殺人集団、洗脳された集団の 2 つのイメージしかない。これに外れたものは NG。放送すればクレームがくる。社会の大部分の人は、自分たちと違う存在だから、あんな凶暴な事件を犯した。と思い込みたい。メディアは、そうあおりたい。サリン事件の時、4ヶ月間、新聞の 1 面はオウムだった。なぜ普通の人たち（オウム真理教の信者）が凶暴な事件を起こしたかを考えるべきだった。でも、しなかった。善悪二分化という考えになってしまっている。今の IS が善悪の二分化で判断されているのと同じで危険。

日本はセキュリティ・監視社会。東京ではゴミ箱は透明。官公庁の施設の入場に ID が必要。オウム以降、監視カメラは世界 1。自警団も全国的に増えた。学校に民間の警備会社を入れるようになった。池田小学校事件のこともあるが、怖いから。こんな怖い人がいると思っているから。

例えば、帰宅途中の夜道で、後ろから刺された。犯人は捕まったけど、刺した理由がわからない。納得できない。理由がわからないから不安は消えない。オウムが怖いのはこれと同じ。



講演の様子

2002年に麻原を裁判所で、近くで見た。同じ動作をくり返していた。重度の拘禁障害。正常な意識はない。おむつをしている。「笑っている」の報道は、顔を「くしゃっ」とした発作のときの表情。麻原は一審のみ。一審で死刑が確定している。

夜道を通らないと帰れない。武器が欲しい。でも武器をもって自分が闘いたくない。誰かに守ってもらいたい。ひとりでいることが怖くなる。ひとりより集団の方が安心。仲良くなる。集団化する。95年以降、管理統制の法律が圧倒的多数で可決された。国家に武器で守ってもらう。集団化が加速している。学校、社会、地域で。

弱いから人間は群れる本能が強い。しかし集団は過ちを犯すことがある。群れは同じ行動をしようとする。同調圧力がかかり、まわりに合わせて自分で考えなくなる。「何で？」という異質は排除する。イジメと同じ。排除される側にはなりたくない。次に敵をつくる。同じ敵に対して、集団が1つになれる。為政者は敵を探す。為政者が国民から支持されるから。

集団化。そして集団内で厳罰化が進む。20~30年前より重罰化している。世界の流れとして厳罰化となっている。死刑が3倍に増えた。連続テロ事件から、特にアメリカ、イギリス、ニュージーランド、日本は重罰化。

2013年、日本の殺人事件は939件。この統計の中には殺人未遂、無理心中も含まれるので、実質はこの半分と見込まれる。戦後最小。毎年、戦後最小を更新している。ピークは1954年の3081件。映画「ALWAYS 三丁目の夕日」の時代の頃。少年事件も現在はピーク時の1/4になっている。治安は戦後どんどんよくなっているのに、メディアは報道しない。「また殺人事件・・・」のニュースを見たら、国民は「法律を変えなければ」と思うようになっていく。



会場の様子

刑を軽くしているのは北欧。寛容化している。オスロ刑務所では、テレビもタバコも自由。インターネットはできないがパソコンも使える。刑務官と一緒に食事をすることもある。日本の刑務所とは全く違う環境である。ノルウェーでは、社会に戻れるようにするため寛容化している。共同で使う台所には、ワイヤーがついているけれど包丁もある。年に3日~1週間の休暇がある。実家にも帰ることができる。戻ってこない人は1人もいない。希望すれば大学にも行ける。でも「自由が制限されているからつらい」と言っている。

犯罪の3つの原因があると彼らは考えている。

1、幼年期の愛情不足。 2、生育児の教育の不足。 3、貧困。

不足を満たしてやるのが刑罰。十分に苦しんできた。これから苦しむ必要はない。だんだんと治安がよくなった。故殺(人を殺す意思をもって殺してしまう)年1件。他の傷害致死と過失殺人も合わせると年20~30件。日本は939件。しかしノルウェーの人口は500万人未満。人口比でいうと、日本は治安世界1。日本を除く重罰化の3つの国の共通点は治安が悪い。

日本は治安が良いのに、なぜ厳罰化するのか？

日本人は不安に弱い。すぐ集団化。メディアは吹聴する。不安や恐怖をあおる。

ノルウェーでテロが起きた時のこと。2日間で77人を殺害。戦後最高の記録。サマーキャンプに来てい

た子どもたちに、犯人がマシンガンを乱射した。そのうち子どもが 69 人殺害された。保護者が嘆く修羅場となった現場に、犯人の母親が花束を持ってやってくる。その母親を取り囲んで、みんなで抱き合っ泣いた。「あなたが一番辛いよね。」さらに、生存者のひとり（16 才の少女）がインタビューで「それほど憎しみがあつたなら、それ以上の愛情をそそごう。」犯人は最高刑の禁固 21 年。日本では「ノルウェーに死刑が復活か？」と騒がれたけど、それはなかった。犯人はオセロ大学の学生になっている。

日本は体感治安の悪化が強くと進んでいる。メディアによって、素早く集団化する。集団化することで間違いを起こす可能性がある。主語が変わる。私ではなく、われわれ。主語が変わることで述語が変わる。

そこに安倍政権が生れる。「国際治安が悪化しているから」「自衛隊のスクランブルは 2004 年の 7 倍」2004 年はスクランブルが最小。2013 年安倍政権になって増えた。マッチポンプ。北朝鮮のノドンの破壊力は小さい。このホール（にぎたつ会館）の半分を破壊する程度。北朝鮮は核の軽量化に成功していない。核兵器開発できていない。冷戦時代と今と、どっちが安全保障環境が悪い？「こんなに悪化しているから」ということに対してメディアも野党も勉強不足。中国が日本を侵略して何のメリットがあるのか。政権が変わりシステムが変わると、法律が変わり、人の心も変わっていく。

ドイツの学生と話をすることがあった。ドイツの学生から「日本の首相が靖国に参詣する日は、メモリアル・デイか？」「ドイツは？」と聞いた。アウシュビッツ収容所解放の日（1 月 27 日）とヒトラー政権発足の日（1 月 30 日）。日本と真逆。ドイツは加害を考えている。日本は終わった日を起点にしている。それ以前を考えない日本。ドイツは始まった日。「なぜ、そうなったか」をずっと考えている。日本は、被害を大きくして、加害を小さくしようとしている人が増えている。大阪市にある「ピースおおさか」、地下一階に南京大虐殺と三光作戦を展示していた。大阪維新の会の圧力で、自虐とされた資料が撤去された。加害の記録をなくしている。なぜ戦争が起きるのか。今は自衛戦争。このときに抑止力という言葉が使われる。

アメリカでは 2 日に 1 件、乱射・誤射の事件が多数起っている。アメリカで強力なロビー活動をしている全米ライフル協会は「銃を持った悪人に対抗することができるのは、銃をもった善人だけである」。年間何十万人も銃で死んでいる。戦争どころでなくなっている。この考え方は軍隊。世界のスタンダードである。どの国も建前は自衛で、侵略戦争ではない。でも他国を侵略している。ならば「銃を持たなければよい」を、日本はしてきた。銃を持たない。まわりはみんな銃を持っているから怖い。でも、それでも歯を食いしばって頑張ってきたから繁栄がある。憲法 9 条は人類の歴史に対するアンチテーゼ。

第 2、第 3 の安倍は、いくらでもいる。集団化が強くなっている。全体についてこないと排除。均一化してくる。メディアも。どうしたらいいかわからないと集団化する傾向が日本は強い。違うことをしたら村八分の傾向がある。だから悪い方向に進んだ。

欧米は自由。日本では憲法改正が言われている。ドイツは憲法でなく基本法だが、何度も変えている。東西に分かれていた国が統一したのだから当然。ドイツで基本法を変える時、国民投票はしない。国会議員が変える。国民は「なぜこのような戦争をしたのかと、自分たちに絶望した。自分たちを信用していない。」だからプロの国家議員に任せる。ドイツは集団化した自分たちに絶望した。日本人は絶望しない。原爆・水爆の被害を受けた唯一の国なのに、第五福竜丸の事故、原発 54 基で世界第 3 位。水俣病、世界初の公害、地下鉄サリン事件、事故が起これば一時は騒ぐが、絶望はしない。元にもどる。

日本のメディアの世界ランキングは 61 位。上位は北欧。安倍政権になって一気に下がった。メディアが

三流、日本の社会も三流、政治が三流、国民も三流の国。

日本はアジアに対して差別意識がある。明治維新の時、列強に侵略されているアジアを見て、アジアを飛び越えヨーロッパに入ることを目指した。中国、韓国に蔑視感情を持っている。戦争でアメリカに負けた。中国にも負けている。経済はアジアで NO. 1 になった。しかし、今は中国に抜かれ、韓国はすぐ後ろにいる（追いつかれている）。おもしろくないので、ヘイトスピーチ。

どうしたらいいのか。次の 2 つを紹介する。

① モンゴルに行った時、ウランバートルの町中で、人が手を握り合っている。以前は治安が悪かった。騎馬民族なのでナイフを持ち歩いている。ケンカして人を刺した事件が多かった。足を踏まれたら、まず手を握り合うようにした。事件が減った。それを今もしている人がいるから。体温が同じだと安心する。

② 羊の群れの中に山羊がいる。質問すると、現地人は「羊は頭が悪い。家族が困る。山羊はずるい。家族が助かる」と言う。羊はまわりを気にする。その場の草を食べつくしても動かない。食べないのでやせて弱っていく。山羊は草がなくなると自由勝手に移動する。羊は山羊について行き新しい場所で草を食べ太る。だまされたかな、と思った。けれど、そうやって羊を飼うのが当たり前だった。

日本人は羊度が高い。山羊を待つか、それよりもみんながちょっと山羊になるといい。言い過ぎると異質になって排除されるから、小声で。日本は山羊が少なく羊が多い。声の大きい方に動く。本気で絶望して、そこから希望を再構築したらよい。

質疑応答より

① オウムが凶悪犯罪をした原因は、麻原の目が見えなかったこと。新聞が読めない。側近がメディアになった。危機的なニュースがあれば麻原が喜ぶ。彼は話の裏をとれない。最終解脱をしていることになっている。何でもお見通しのはずだから「本当か？」と聞けない。ポア。真面目に殺してあげることで、転生させてあげると、いう意識。優しい人だけど魂を信じているから「そこまで攻撃するのなら」と、殺してリセットさせてあげよう。

② ヨーロッパの人が日本に来て、回転寿司のランキングをニュースでするのに驚く。事件のニュースを見て「こんなに治安が悪いのか」とびっくりする。長くいると殺人の件数が多いのではなく、報道が激しいのだと気づく。昔は件数が多かったが取り扱いは小さかった。今は 1 件でも社会面 1 面。アメリカは多すぎて載せない。中国も載せない。欧米は裁判で決定するまで載せない。日本は容疑者の段階で出す。被害者もその友人関係も紙面に出す。こんなことするのはアメリカの一部と日本だけ。

③ 戦争中、ポーランドの村でユダヤ人 650 人がナチスに殺された。実はポーランドの村人が殺したことがわかった。国家記憶院が加害を調べて分かった。国民は殺害行為をしたことを知ってショックを受けた。国が自国の加害を調べて事実を公表することを、ポーランド人は「だれも恥と思わない」。カンボジアのキリング・フィールドも、国家の犯罪を公開している。自分たちの過ちを公表して、恥と思わない。日本はなんで隠すのか？世界記憶遺産に中国が南京大虐殺を提案した時、日本の政府の役人は「南京も慰安婦も、なかったことにしようとしているのに」と怒っていた。

④ イギリスで感じたこと。「『テロに屈するな！』に屈するな」の本に書いた。オウムの事件から 20 年のシンポジウムがイギリスの大学で行われた。日本の大学ではオウムのことで討論できない。IS が原因。IS に参加している若者が、イギリスが一番多いので問題になっている。学生「オウムのようなカルト集

団が・・・」との発言に専門家が怒った。「カルトという言葉を使ってはいけない。使うことで二分化してしまう。」防犯カメラは捜査には役立つが、犯罪防止には役に立っていない。イギリスでは防犯カメラは減っている。オックスフォードにはほとんどない。

- ⑤ 凶悪な事件を起こした原因。オウムの信徒は、教義は正しく、それを広めることが正しいと、本気で思っている。他の宗教と同じ。ものすごく迫害されたと思ったから事件を起こした。それと麻原の目が見えなかったことが大きく関係した。
- ⑥ 集団化、そのものが悪ではない。集団化すると時に大きな過ちを犯すことがある。まわりが「右だ」と言う時「本当に右なのか？」と考える。主語を「私」に置き換えて考える。「我々」だと流されてしまう。

### 参加者感想

- ◆ 今日はありがとうございました。森さんの本に、どんなことも知っていこうとすることが大切と、書いていました。マスメディアでは、いろんな重圧があつて本質を流せないことを知ったのでこれから、自分主体で本質を見つけていきたいと思えます。
- ◆ 実際にそれぞれの方と接見し、真実をふまえた話は説得力があつたし興味深かった。自分もメディアや日本の空気に流されているなど改めて感じた。このようなものの見方について、若い方にもぜひ聞いてほしいと感じた。安易な考えで羊にならず、しっかり山羊の視点をもち続けたいと思う。
- ◆ 管理社会、厳罰化、刑務所についてノルウェーの休暇制度に驚きました。愛情や教育、生活を満たすことが根本的解決になること。羊と山羊の話は心に残りました。(山羊になりたい。)
- ◆ 日本は治安がよいのに悪いと言っている点に驚きましたが、それがサリン事件以来の「不安」というポイントに納得。北欧の刑務所の映像はとても勉強になりました。“足りないものを補う”“社会生活をするためにはルールを守る必要があることを人との関わりで身に付ける”という考えはすばらしい。というか基本なのに「なぜ、まだこの考えに日本が行きついていないのか。」と考えさせられた。

### ◆◆編集後記◆◆

日本人の気質がよくわかる、考えさせられる講演でした。

「また参加したいな～。ここでしか味わえないな～」という研究会に、  
今後も考えていきたいと思えます。



## 子どもたちと教職員の生活を守るため、共に考えましょう!

私たち愛媛教職員組合は、年に数回、研修会(研究会)を開催し現場での力量を高めています。ぜひ、ご参加いただき共に学びましょう。  
質問や感想がございましたら、お気軽にご連絡ください。

〒790-0813 松山市萱町6丁目42 コーポラスかやまち1F

TEL(089)924-4546 / FAX(089)924-4403 / e-mail jtuehime@lime.ocn.ne.jp

HP <http://jtuehime.sakura.ne.jp/>

愛媛教職員組合 書記長 堤 剛

